

なやクリニック

◆◆◆ 子育て通信 ◆◆◆

「ヒブワクチン」

ヒブ (Haemophilus influenzae type b =Hib)は、細菌性髄膜炎をおこす細菌です。

年間約1000人の乳幼児が細菌性髄膜炎になります。そのうち約600人がヒブが原因で起こっています。細菌性髄膜炎にかかると、5%が死亡し、約20%が知的障害やてんかんや運動障害などの後遺症に苦しめられます。

ヒブワクチンはヒブ感染を予防しますので、ヒブによる細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎、菌血症などの重症感染症も予防します。

ヒブワクチンは WHO が接種を推奨した1998年以降多くの国で、定期接種に組み込まれています。ヒブワクチンが導入されていない国は、アフリカや中東地域の政情や経済状況が問題となっている国だけです。我が国ではWHOの勧告から遅れること10年、2008年12月から、ワクチン接種を受けられるようになりました。

接種時期

初回6ヶ月までに開始の場合：1歳までに3回、1年後に1回 計4回

初回7ヶ月から開始の場合：1歳までに2回、1年後に1回 計3回

初回1歳すぎから開始：1回のみ

5歳までが対象



費用

自主接種ですので費用がかかります。当クリニックでは1回7000円です。

現在ワクチンの入手方法は、クリニックからワクチン販売会社へ接種希望者ごとにfaxで申し込むことになっています。

ヒブワクチンの副反応

接種後12～24時間で、接種部位の腫れ(18.7%)、痛み(5.6%)が、みられます。

全身反応では、不機嫌(15%)、下痢(8%)、食欲不振(9%)、不眠(10%)、嘔吐(6%)、発熱(3%)などです。